

和歌を読み解く

～伊勢物語 東下りを辿って～

高校 1・2 年 言語文化 伊勢物語

<学習指導要領コード>

8412503221200000

「ColBase」収録 東京国立博物館所蔵
尾形光琳筆, By Ogata Kōrin (1658–1716), 東京国立博物館, Tokyo National Museum
『伊勢物語八橋図』を加工 CC BY
<https://jpsearch.go.jp/item/cobas-37896>



伊勢物語とは

☆ある「男」の一代記

平安時代の六歌仙の一人と言われる歌人在原業平(ありわらのなりひら)といわれる

☆平安時代前期の歌物語 各段に必ず和歌が詠まれている

☆作者未詳 業平の側近ではなかったかと推測される

☆『源氏物語』と並んで、謡曲をはじめとする後世の文学に大きな影響を与える。

国立国会図書館60周年記念貴重書展<https://www.ndl.go.jp/exhibit60/copy1/1ise.html>

在原業平ってどんな人？

在原業平〈ありわらのなりひら・825-880〉は、平安時代初期の歌人。平城天皇の第1皇子阿保親王の子。歌才に恵まれ、六歌仙・三十六歌仙の一人に並び称され、『伊勢物語』の主人公としても広く知られている。この画像は、歌仙を象徴して、硯の前に置き、左手で料紙を持ち、筆を握った右手をそっと頭に添え、歌を思索中の姿に描く。

『在原業平像』（慶應義塾ミュージアム・コモンズ所蔵）

「Keio Object Hub」収録 CC BY

<https://jpsearch.go.jp/item/keioobjecthub-1776>



東下り 道のり

「男」が、失恋の痛みを癒やすため、友人と東
(現在の東京) に下っていったルート

文化遺産オンライン収蔵 東京富士美術館所蔵
狩野益信画「東下りの図」 CC BY

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/227192>



富士山 ～平安時代はこんなふうを描かれていた～

東京国立博物館, Tokyo National Museum 『一字宝塔法華經断簡（太秦切）』（東京国立博物館所蔵）

「ColBase」収録 CC BY <https://jpsearch.go.jp/item/cobas-56810>



富士山っていまはこんな感じ

『富士山』（NHKアーカイブス所蔵）「みちしる」収録

(https://jpsearch.go.jp/item/michi-D0004040011_00000)

「かきつばた」の歌 ～八橋～

東下りをしていた失恋男子3人組
が「かきつばた」の歌を詠んでいるところ

尾形光琳筆, By Ogata Kōrin (1658–1716),

東京国立博物館, Tokyo National Museum

『伊勢物語八橋図』（東京国立博物館所蔵）を加工 CC BY

「ColBase」収録

(<https://jpsearch.go.jp/item/cobas-37896>)



鳥取県との関係

在原業平の兄である行平は、稲葉山（現在の鳥取市国府町）を歌に詠んだ

「立ちわかれいなはの山の峰におふる松としきかは今かへりこむ」

※百人一首の歌です！